

チビツ子



第1回 体力



子供たちは弾むように、おばあちゃんはそのんびりと……みんな快歩!



「もうおなかがペコペコ、おにぎり2つじゃ足りないなあ…」



私のひとこと



「光・明るい」—なんとという温かく和やかな響きでしょう。「闇・まっ暗」—なんと恐ろしいことでしょうか。この明暗を識別する器官は言うまでもなく目です。さすがに朝の目覚め、視界に開けるもろもろの事物が今日一日の幸せを用意して、お早うと迎えてくれます。迎えられる者の幸せは、自然からのこよなき賜物と言えるでしょう。もし、朝の目覚めに何も目に映らなかったらどうでしょうか。

暗黒の人生を強いられ、それに耐え、生きる意欲の沸くまでには、どんなにか葛藤が繰り返されることでしょうか。世を怨み、人生観をさえ変えてしまいます。それほど目は大切なものです。私自身、失明こそしていませんが、白内障の手術後は左右の視点のバランスがくずれ、そのために物が二重三重に見え、さらに遠近の感覚にも誤差が生じています。外出先で知人に会っても識別ができず、大変な失礼をしている状態

眼球をください

本間 重寿 (上町)

最近、落語家の桂米朝が、テレビなどで失明者への眼球提供を呼びかけていますが、とても嬉しいことです。私の家族四人も、十年前にアイバンクに登録していますが、まだまだ需要を満たすには程遠いものがあるそうです。生きるために必要なものは視力です。視力を失った者の悲しみは、いつ我が身に降りかかってくるかわかりません。皆さん、この眼球提供運動にご賛同くださるよう、心からお願ひいたします。すべての人々が健康で心豊かな人生を送ることのできますよう、お力添えください。(問い合わせは横芝四八五 本間(二)〇七三九までお願いします)

街道の歴史を語る

このように、大総地区に点在する庚申様には古い時代のものが多く、また移遷されたものはあまりなくて、ほとんどが昔のままの場所に建っているようです。移遷されているものも、その経過がはっきりしており、昔の街道筋を探る大事な役目を果たしています。桜前姥山街道の庚申様の側面にある案内文字や、牛熊八幡の「神輿の御浜下り」という昔の行事と、その浜街道という道筋を教えてください。町原の庚申様を始め、牛熊・谷

台・木戸台矢部田の庚申様などは、各々道筋の歴史を秘めています。

図柄に特徴

また、石工等の影響によるものか、この地域の庚申様の図柄には変わったものが見受けられます。例えば、大ていの三猿は皆正面を向いているのですが、ここでは両側の二匹が中を向いたり、外を向いているものが多いのです。天蓋の正面に卍の形が刻まれているものもあります。なかでも中台大宮神社境内の庚申様は、背丈も高く道教の影響と思われる人物や鳥獸を配した見事な図柄で、ある専門家が「町の文化財としての価値も」と、目を見張ったほどです。

石仏などではよく話題になる「ご利益」については、於幾の水神様前の庚申様が耳の神様で、願が叶うと甘酒を供えるという風習が今でも残っているそうです。また、牛熊の庚申様を「昔は天気の良い神様であった」という人がいます。この他には、家内安全・無病息災という、極めて平凡なご利益を願望として見られるようです。

○写真は、大総地区のある庚申様ですが、三猿が内側に向きあっているのがよくわかります。(この庚申様は、今では立派に正しい姿で祭られています)

町文化財審議会委員

小沢春光さん寄稿

